

グループホームなごみ吉志

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		「目配り、気配り、心配り」を理念の中心に掲げ、地域密着型サービスとして、「地域との連携・交流」のもとで、自立した質の高い生活をなじみの関係の中で行うことを事業所で取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義をグループワーク等で確認し、地域生活の継続支援及び事業所と地域の関係性強化を謳った理念をつくりあげている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		理念の中心的考え方である「目配り、気配り、心配り」を基本にミーティングやスタッフ同士で意見交換を行い、周知を図っている。	職員の採用時には必ず理念を伝え、理解してもらうようにしている。また、ミーティングや申し送り、関わりの振り返りの時にも、理念に必ず触れ、確認し合うようにしている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		ご家族には家族会や来所時等、折に触れ繰り返し伝えていく。また、自治会の回覧板や運営推進委員会で地域行事の情報をいただき参加するようにしている。	運営推進委員会に家族や地域の方に参加していただき、意見交流の場として大切にしている。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		散歩などに出かけた時、近所の出会った人と挨拶を交わすことにより、近所の方々に親しんで頂けるようにしている。また、敬老会やクリスマス会などの行事に歌や三味線・琴の演奏など披露していただいている。	事業所内のイベントに近隣の方にも声掛けし、一緒に楽しんでいただくようにしている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		近隣の福祉センターで行なわれる歌謡ショーなどに、地域の方と一緒に参加している。また、地域住民の一員として、町内会に加入しており、地域の文化祭やお祭り等には、利用者と共に積極的に参加している。	幼稚園や小中学校の運動会や文化祭等への行事に参加していきたい。

グループホームなごみ吉志

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員の介護力を生かして、地域の認知症高齢者等の暮らしに役立つお世話の内容を地域包括支援センターと話し合いながら、認知症高齢者等が地域で安全で安定した暮らしが出来るよう取り組んでいる。		地域住民及び地域包括支援センターと協力して、高齢者世帯をリストアップして、事業所や職員が支援出来ることを話し合って支援したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義や目的を意識しケアに取り組んでいる。前回の評価における改善課題については、外部の研修を受けるなど教育を実施し、具体的な改善に取り組んでいる。		改善課題については、職員全員で話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2箇月に1回行っており、サービスの状況説明や行事報告などを行い、参加メンバーより地域行事の情報や意見を頂き施設の質の向上に役立っている。		運営推進会議では、自己評価の内容を説明すること、外部評価の結果を公表することが必須であり、取り組みや改善経過のモニター役として適役であり、評価と運営推進会議を一体的に活かしていくことで相乗効果を図りたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自治体職員・大学生及び街づくり協議会などの実習を受け入れ等により、行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		市職員の研修場所として事業所を活用してもらい、職員や利用者と交流を図って行きたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を受ける方がおられるので、制度を理解してもらうため施設外研修に積極的に参加させている。成年後見制度について、ミーティングや会議等機会あるごとに、職員への説明を行なっている。		対応が必要な利用者があるので、随時職員に説明、アドバイスをしながら、利用者支援に結びつけている。また、勉強会を開き、職員の理解を深めて行きたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止についての取り組み、スタッフ同士で意見交換を行ない、虐待を行わないケアを行なっている。		精神的虐待などのように、目に見えにくい虐待についても早期発見に向けた取り組みを行いたい。虐待現場を発見したら、必ず管理者に報告するようにしている。

グループホームなごみ吉志

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者側の立場にたち、時間をとって丁寧に説明している。特に利用料金や起こりうるリスク、重度化や見取りについての対応、医療連携体制の実際などについては詳しく説明し、同意を得るようにしている。		ご家族より意見や不満等を傾聴するために、ホーム入り口にご意見箱を設置しました。また、利用者、ご家族が不安や疑問等を十分に表せるような働きかけを行うと共に、職員全員が説明できるようにして行きたい。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心がけている。その時々を利用者の不安、意見等の話し合いを行い、特定の職員の中に埋めさせないようにしている。		意見や苦情について検討を行い、速やかな対応がなされるよう改善の経過や結果を伝えていくプロセスを作っている。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に日々の状態や健康状態などを説明している。金銭管理については、治療費や嗜好品の購入等の支出説明を行い出納帳と残高を確認していただいている。また、健康状態などに異変があれば、電話にて報告している。		来所時には、行事の際のアルバムやケース記録等を見ていただいている。また、ご家族からの質問などには、全職員が答えられるようにしている。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を開催し、意見交換を行ったり、職員と直接話し合う機会を設けている。また、ご家族には手紙や来所時等で常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。		ご家族等は、意見や不満、苦情を言い出し難いということを理解し、職員や事業所側から意見等を積極的に聴く努力や場面作りを行いたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや勉強会等を月1回行い、意見を聞くようになっている。また、年間に数回懇親会も行い、職場を離れて事業者と接点を持てるよう取り組んでいる。		全体ミーティングで職員の意見、要望を聞くとともに、ミーティング時にテーマを決めて話し合っている。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の自由な暮らしを出来る限り支えられるよう、起床時や就寝時、食事等、利用者の状態やペースに合わせるため、職員の勤務体制や臨機応変な対応について、管理者と職員がよく話し合いながら調整している。		運営推進会議や家族会で、家族の状況や要望を傾聴し、事業所との柔軟な体制を構築させる。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者とのなじみの関係を重視しているため、人事異動はなるべく行なわないようにしているが、退職による移動や採用時における引継ぎの際には、新しい職員を紹介し、利用者から1日の流れを教えてもらうなど、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		利用者、ご家族への信頼を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えており、離職等がやむを得ない場合も、その時期や引継ぎの面で最善の努力をしている。

グループホームなごみ吉志

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>		<p>今後とも職員の採用等には、平等に行うようにする。また、職員が自己の持つ能力を十分発揮できるよう、外部研修への参加および資格取得への支援を行い、職員のモチベーションを上げられるよう努力していきたい。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>入居者に対する人権を尊重するために、社内研修時にグループワークを行い人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>		<p>市町村等の開催する人権教育や啓蒙活動に積極的参加させ、ミーティングにおいて人権尊重について常に考えるよ機会を増やしていきたい。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>部外の学習会や研修、講演会等には順番で参加させたり、スーパーバイザーである上司の意見やアドバイスを受け、スキルアップできる環境を整えている。</p>		<p>事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしている。また、それらの研修報告は、毎月の勉強会で発表してもらい、研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣の老健、グループホームとのネットワークを構築し、行事などに参加した折に、意見交換や交流等を通じてサービスの質の向上を図っている。</p>		<p>関連の事業所や同時期に開所した事業所などと、学習会や交流を持つことにより、サービスの向上を目指している。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職場を離れて職員同士の交流が図れるように、懇親会などを開催し、職員同士が互いに悩みや思いを気楽に打ち明けられる機会を設け、ストレスの軽減に取り組んでいる。</p>		<p>事業所ごとに懇親の場を多く設けて、職員のストレスや悩みを把握するように努めたい。また、職員の疲労やストレスの要因について気を配り、勤務時間中にも気分転換を行えるスペースを確保したい。</p>

グループホームなごみ吉志

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。		職員の日頃の努力や実績、勤務状況等を把握し、それらをもとに向上心を持って働けるような配慮や対応をしていきたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用について相談があったときは、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。		家族の困っていることや不安なことを、本人の意志とは区別して把握することによって、本人との信頼関係を作っていく。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が求めているものを理解し、事業所としてどのような対応が出来るか、事前に話し合いをしている。また、これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくり聞くように努めている。		初めて相談に訪れたとき、利用を前提に話しを進めてしまうのではなく、家族にとって今何が困っているのか、即時的なニーズが何なのか等、話を十分聞いている。
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしている。(小規模多機能型居宅介護、グループホームなど)		早急な対応が必要な相談者には、可能なかぎり柔軟な対応を行い、場合によっては地域包括支援センターや他の事業所のサービスにつなげるなどの対応を心がけている。
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	雰囲気慣れていただくと共に、家族と相談しながら徐々に馴染んでいただけるように、人間関係を築き対応している。		本人自身が気持ちを伝えることが困難であり、利用者一人ひとりが安心してサービスを利用できるよう、相談の時点から利用に至るまで、利用者の視点に立って柔軟に支援していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は、人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段から利用者に教えてもらう場面も多い。また、そういった場面が多くもてるようにセッティングや工夫や声かけに配慮している。		支援する側、支援される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活できるように場面づくりや声掛けをしている。

グループホームなごみ吉志

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事などの来所時に、利用者と一緒に料理を作り、配膳、食事をとり、後片付けを手伝っていただいている。また、家族との情報交換を密に行なうことや、支援を求めている家族についていつも耳を傾けている。		職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気付きの情報の共有に努めて、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援することを伝えている。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の本人への思い、本人の家族への思いを受け止めて、両者の思いが結びつくような働きかけを心がけている。		家族が疎遠となってしまっている利用者さんに対し、事業所では修復に向けて具体的な取り組みを行ないたい。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院に行き続けている利用者や、馴染みの知人等に電話や手紙で連絡を取り持つなど、つながりを継続できるようにしている。		地域に暮らす馴染みの知人、友人等の家に遊びに行ったり、遊びに来てもらったり、継続的な交流ができるよう働きかけていきたい。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日のお茶や食事の時間は、職員も一緒に多くの会話を持つようにしたり、役割活動を通して利用者同士の関係が円滑になるように努めている。		個別に話しを聴いたり、相談にのったり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくりをするなど、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援している。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	亡くなられたり、入院のため退所された方やご家族にも、行事に招待したり、遊びに来てもらう等、継続的な付き合いができるよう心がけている。		地域密着型サービスとして、サービスの期間のみの関わりではなく、終了後も利用中に培った関係性を基盤にしながら、長期・継続的なフォローをしていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な人には、その人の気持ちになって考えたり、ご家族に相談や情報を得るようにしている。		利用者の言葉や言葉にしづらい思いを、日々の行動や表情から汲み取り、職員全員が把握できるようミーティング等で話し合いを行なっていく。

グループホームなごみ吉志

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に本人のバックグラウンドに関する情報の大切さを伝え、小さな事柄でも情報を伝えてもらい、それらを蓄積しながら、本人の全体像をしるようになっている。		本人自身の語りや、家族、知人等の訪問時など少しずつ把握に努めていきたい。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送り、バイタル表、利用者日誌、業務日誌を出勤時に必ず目を通し、一人ひとりの状態を把握し、個人ごとのペースにあわせて、楽しい生活を送っていただくようになっている。		家族や関係者による「できない」という情報にとらわれず、できること・わかる力を、本人の生活や全体像から把握するようにしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようになっている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。		利用者が自分らしく暮らせるよう本人や家族の要望を聴き、課題となる事をスタッフ全員で話し、介護計画の作成に活かしている。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が情報を確認し、ご家族やご本人の要望を取り入れつつ、3ヶ月に1回見直しを行い、状態が変化した際には、終了する前であっても検討見直しを行っている。		介護計画と照らし合わせて、現時点の利用者や家族の状況・ニーズ、サービス提供状況とずれていないか、職員全員で検討している。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに食事、水分量、排泄等身体的状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録し、一人ひとりの状態を把握し介護に反映させたり、介護計画の見直し等に生かしている。		漫然と記録するのではなく、利用者やケアの個別状況やケアをしながらの職員の気付きや工夫を記入するようにしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人と家族の暮らしの継続性を守るための多機能性を活かした柔軟な支援、利用者や家族の日々変化する状況や重度化していく状況、要望に応じて、必要な時に必要なサービスを、臨機応変かつ柔軟に馴染みの職員が提供していく。		医療連携体制を活かしてその利用者にとって負担となる受診や入院の回避、医療処置を受けながらの生活継続、重度化した場合や終末期の入院の回避などを行って行きたい。

グループホームなごみ吉志

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域で暮らし続けられるよう、運営推進会議などで民生委員や地域の代表者等と意見交換を行なっている。		老人福祉センターや図書館等の地域の資源を活用できるように、普段から連携をとっていきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状況や希望に応じて、美容院や口腔ケアなど本人およびご家族の承認を得て利用している。		利用者の状況やニーズを把握し、必要に応じて他のサービスを利用できるよう支援していきたい。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員の参加により関係が強化されており、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		成年後見制度が必要と思われる利用者には、地域包括支援センターと協力して利用できるよう支援している。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診のほか、利用者の変化や健康面で心配がある場合は、その都度相談ができる関係を築いている。家族と相談しながら、利用者それぞれのかかりつけ医と話し合いや情報のやりとりを通して、関係を築いている。		事業所の協力医のほか、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族と協力して通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうケースなどあり、複数の医療機関と関係を密に結んでいきたい。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	本人の状況に応じて、ご家族と協議して専門医に受診するようにしている。ご本人が少しでも良い状況で生活が出来るよう、専門医に日々の記録を伝えて助言を頂くようにしている。		本人や家族が希望するかかりつけ医が認知症専門医の場合は、受診や通院はご本人やご家族の希望に応じて対応し、適切な医療を受けられるように支援している。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない時間は、介護職員の記録をもとに確実な連携を行っている。		看護職員による社内勉強会などを開催し、介護職員のスキルアップを図っている。

グループホームなごみ吉志

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるダメージを極力防ぐために医師と話しをする機会をもち、事業所内で対応可能な段階でなるべく早く退院できるよう、アプローチしている。		入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。また、家族とも情報交換しながら、回復状況等速やかな退院支援に結び付けている。
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末に対する対応方針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行うようにする。また、状態の変化があるごとに、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、支援につなげていく。		本人と家族の安心と納得を得られるように、本人や家族、事業所側の状況の変化のたびに、話し合いを繰り返すようにしていきたい。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の気持ちを大切にしつつ家族と話し合い、利用者が安心して終末期を過ごしていけるよう取り組んでいく。もし急変した場合にも、すぐに対応していただけるよう医療機関とも密に連携を図り対応していきたい。		重度や終末期の利用者を支えるために、チームの連携、職員の力量、諸条件等を備え、他の利用者への影響も踏まえて対応していきたい。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合、アセスメント、ケアプランや支援状況等を引き継ぐと共に、情報交換を行い、馴染みの職員が機会を作って訪問に行くなど、リロケーションダメージを最小限に食い止めるよう努めたい。		利用者の環境や暮らし方の変化によるダメージが、最小となるよう、本人に関わる関係者の協力を得て取り組んでいきたい。
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人前であからさまに介護したり、誘導の声掛けをして、本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。		他の家族や外来者に対して、職員が本人のプライバシーに関する話を話さないことを徹底していく。

グループホームなごみ吉志

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせて声をかけ、些細なことでも本人が決める場面をつくっている。(飲みたい物、食べたいメニュー、する、しない等)		職員側で決めたことを押しつけるようなことはせず、複数の選択肢を提案して利用者一人ひとりが自分で決める場面をつくっている。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・基本的な1日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個性のある支援を行っている。		本人が今日をどう過ごしたいか、一人ひとりのその日の望みを知ることを大切に、それに応じて柔軟に支援するようにしている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみを本人の自己表現の一つと捉えているので、本人の好みで整えられるよう支援をおこなっている。		個々の生活習慣に合わせ支援をし、また、行事等日頃からも化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回その日のメニューは、利用者と相談をしながら決めるようにしている。また、調理、盛り付け、片付け等も利用者と共に、楽しく食事できるよう雰囲気づくりも大切にしている。		料理が好きな利用者と一緒に野菜を切ったり、味見をいただいている。また、後片付けも一緒にいただいている。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は一人ひとりの嗜好物を理解しており、本人の様子や時間をみながら、それを楽しめるように支援している。また、お酒の好きな利用者と一緒に、好みの酒を買いに行ったり、食事の前に楽しめるよう支援している。		利用者が自宅と同様に、馴染みの嗜好品を楽しめるよう日常生活に取り入れている。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターン、習慣を把握し声掛け、トイレ誘導を行ったり、パット内の確認を行っている。また、排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。		一人ひとりのサインを全職員が把握し、あからさまな誘導ではなく、さりげなく支援をしている。また、失敗した場合でも、極力本人が傷つかないように手早く、周囲に気付かれないよう配慮しながら対応している。

グループホームなごみ吉志

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めず、利用者のその日の希望を確認し入って頂き、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた支援を行っている。		一人ずつ、ゆっくり入っていただき、「気持ちよかった」と言われる入浴を心がけている。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。		夕方から穏やかで安心した時間を過ごしていただき、就寝に向けてリズムが安定するよう工夫している。寝付けない時には、テレビと一緒に観たり、暖かい飲み物を飲みながらおしゃべりする等配慮している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の気持ちを伝えるようにしている。		生活リハビリとして、毎朝その日のメニュー書きやお茶碗拭きなど、利用者のできることを、無理なくして頂くことにより、張り合いのある日々を過ごしていただいている。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができない利用者は、個人個人には所持金を持たせていないが、お金を所持していることで、安心される利用者には、ご家族の了解のうえ、小額のお金を所持できるよう支援をしている。		少額を所持してもらったり、買い物に行くときは本人が支払えるよう支援するなど、お金がある安心感や満足感に配慮するようになっています。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、本人の気分希望に応じて季節感を肌で感じてもらい、心身の活性につながるよう日常的に散歩に出かけたり、希望があれば外出支援を行っている。		一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせられるよう心がけており、歩行困難な利用者でも、車いす等を利用し、戸外へ出ることを積極的に行っている。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人が行きたいと思う場所への外出については、予め計画を立てご家族の了承を得たうえで、職員の勤務を調整する等しながら外出の支援をしている。		一人ひとりの思いや願いを叶えられるよう、利用者、家族等と相談し、協力を得ながら実現に向けた取り組みを行っていききたい。

グループホームなごみ吉志

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状と暑中見舞いを出すための支援を欠かさずに行うようにしている。また、利用者の希望に応じて日常的に電話やはがきを出せるよう支援している。		時々、ご家族から電話をかけていただき、利用者と直接会話をすることで、喜びや安心を得られるよう支援している。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族も親の家に訪れるような気軽で来やすい雰囲気作りを心がけている。訪問時間などは定めておらず、ご家族の都合のいい時間帯に、いつでも訪ねて来て頂けるような配慮をしている。		家族や本人の馴染みの人たちが来たときに、自然な形で歓迎し、居心地のよい空間づくりを心がけている。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会の中で話し合っており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		ミーティングや日々の申し送り時等で、その日のケアを振り返り、自覚しない身体拘束が行われていないか等点検している。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり一緒についていく等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。		職員の見守り方法を徹底し、また一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かくキャッチすることで、自由な暮らしを支援している。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握するよう努めている。夜間は、数時間ごとに利用者の様子を確認するとともに、起きられた時にすぐに対応できるよう居場所を工夫している。		昼夜共に職員が利用者を見守りやすい位置にいて、利用者の様子を察知できるようにしている。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に照らしながら、厳重に保管すべきもの、保管管理が必要なもの、利用者が使う時に注意が必要なもの等に分けて管理している。		全てを取り除くようなことはなく、利用者の状況変化によっては注意を促していくなどケースに応じた対応をしている。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録し、話し合いの場をもって事故防止に努めている。万が一の事故が発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について検討し、家族への説明と報告を行っている。		現在の利用者の状況に応じて、想定される事故を職員で検討し、事故を未然に防ぐための工夫に取り組んでいる。

グループホームなごみ吉志

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が、年に1回の応急手当の勉強会を実施し、体験、体得、習得するようにしている。また、緊急時対応について、マニュアルを整備し周知徹底を図っている。		消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修を実施し、全ての職員が対応できるようにしていく。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回利用者とともに避難訓練を行っている。また、消火設備や避難路の確保等の設備点検を定期的に行っている。		消防署の協力を経て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。また、地域協力体制については、近隣の企業にお願いしたり運営推進会議で協力をお願いしている。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の安全を確保しつつ抑圧感のない自由な暮らしを支援するため、来所時に事業所の取り組みを丁寧に説明し、理解を得られるよう努めている。また、大型行事の際には、家族会の中で説明や話し合いを行なっている。		利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて把握しており、家族等に対して対策を説明しています。また、起こり得るリスクについては、個別的に定期的な見直しを行っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、少しでも食欲や顔色、様子等の変化に気付いたときは、バイタルチェックを行い、変化時の記録をつけている。状況により医療受診につなげている。		つねに顔色や様子に注意し、兆候を見落とさないよう注意することを全職員に徹底しています。また、一人ひとりの持病やアレルギーの有無、留意事項を把握するよう指導していきます。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとに、服薬ファイルを作成し、全職員が薬の内容(目的、用法、用量、副作用)を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服用できているかの確認をしている。		誤薬の服用や飲み忘れのないように、一人ひとりの名前を書いた箱に服用の日、朝、昼、夕等を薬に記入している。服薬の際には、薬の確認は、複数のスタッフにて確認をし誤薬防止の徹底を行なっている。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材の工夫や水分補給をこまめにしたり、廊下を歩いて体を動かすことにより、自然な排便が出来るよう取り組んでいる。		下剤や浣腸等を使用している場合は、個々の状態にあわせた使用量、頻度となっており、薬にむやみに頼らない工夫をしている。

グループホームなごみ吉志

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、利用者の力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。また、口腔ケアの重要性を、全ての職員が事業所内の研修で理解し、肺炎を予防するきちんとした技術を身につけるようにしている。また、週に1回、歯科を招いており、歯垢のチェックや口腔状態を見ていただいている。		一人ひとりの習慣や意向を踏まえ、個別に働きかけを行っています。また、入れ歯の管理、手入れを確実にできるよう支援している。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。個人ごとの摂取量等も記録して、おおまかに栄養摂取量を把握している。		食材は、専門業者より購入しており、栄養の専門的な観点から献立が作られているため、栄養バランスにも配慮されている。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こり得る感染症について、細かくマニュアルを作成し、全職員で学習して予防・対策に努めている。		感染症に関して情報収集を行い、取り決めを作り、早期発見、早期対応に努めている。また、利用者および家族に同意をいただき、インフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルス対策として、アルコールによる手の消毒、使い捨ての手袋を使用する等、予防も徹底している。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾等は、毎日漂白し清潔を心掛けている。冷蔵庫も点検、清掃し、食材の残りは鮮度や状態を確認し、冷凍したり処分したりして食中毒の予防に努めている。		調理器具、台所水回りの清潔・衛生を保つよう、職員で取り決めて、実行している。安全な食材を使用するため、毎日配達をしてもらっている。また、冷蔵庫や冷凍庫の食材の残りの点検を頻繁に行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気のある玄関となるように、利用者と一緒に作った作品などを飾り、玄関先の周囲に花を植えて、季節感を演出している。		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音、ご飯が炊ける匂い、心地よい音楽、ゆず湯や菖蒲湯、鍋料理や桜餅など、五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。		フロアの飾りつけや家具の配置は利用者と一緒に考えて、利用者が自分の住んでいる家だという意識を高めてもらえるような工夫をしている。

グループホームなごみ吉志

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダにイスとテーブルを置き、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っている。		共有空間で他の人の気配を感じながらも、一人で過ごせる居場所づくりの工夫をしたい。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子以外にも、それぞれの利用者の好みや馴染みの物などを生活スタイルに合わせて用意し、昔から住み慣れた環境に近づけて過ごしていただいている。		写真や使い慣れた目覚まし時計や携帯ラジオ等が泊まりの部屋に持ち込まれ、利用者の居心地のよさに配慮しています。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フロアは食事の後や一定の時間帯に換気をしており、冷暖房は常温の±5 を基本に、利用者の発汗の様子や冷えなどに注意して調整している。トイレは換気扇と消臭剤で悪臭の出ない工夫をしている。		冷暖房の、温度調整は、職員の感覚だけでなく利用者一人ひとりの状態に配慮している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるように、廊下に手すりを設置し、自分の足で歩けるよう工夫している。生活リハビリとして、掃除や食器拭き、洗濯物を干したり、乾いたものを畳んでいただいたりしている。		利用者の状態にあわせて、手すりや浴場、トイレ、廊下などの居住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしている。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にとって「何がわかりにくいか」「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を追求し、状態に合わせて環境整備に努めている。状態が変わり、新たに混乱や失敗が生じた場合は、その都度、ミーティングを行い、本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せるよう試みている。		一人ひとりのわかる力を見極めて、不安の混乱、失敗を招くような環境や物品についての検討を行い、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする環境面での工夫を行っている。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を植えたり、畑のスペースを確保し、利用者が日常的に楽しみながら活動できるような環境を作っている。また、ベランダにベンチを置いて、利用者が涼んだり、日光浴が出来るようにしている。		身体的機能の低下に伴い、日常的な外出が困難になった利用者にも、ちょっとした戸外スペースを活用して外気浴を楽しむ等の心身のリフレッシュを支援していきます。

グループホームなごみ吉志

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホームなごみ吉志

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)